

## 2023年度 学校関係者評価

諮問委員会開催日時：令和5年12月20日（水）10:30～12:00

### 1. 学校関係者評価諮問委員

島根県立大学大学院 看護研究科看護栄養学部 元教授

看護学校非常勤講師、元看護管理者、教員・卒業生

浜田市健康福祉部 地域医療担当課長

浜田医療センター 看護部長

学校職員（学校長他）11名

<b>1. 主体的に学ぶ力を育てる学習環境の充実・整備</b>					平均
1) 学生の「わかる・できる・やってみよう」を支援する授業（講義・実習）の工夫および授業を支援する教員間での連携強化	3	4	4	3	3.5
2) 各学年の学習状況、学生個々に合わせた学習支援体制の強化	3	3	4	3	3.3
3) 学科・実習委員会、学年間、ほか担当グループ間の連携を計画的に行い、教員全体が情報を共有し、組織的・効果的な学校運営、会議の組織化による情報共有	3	4	4	3	3.5
<b>2. 機構および地域へ貢献できる看護職員の育成</b>					
1) 浜田の地域医療・看護に興味関心が持てるような学習支援および地域・在宅看護論の具体内容・方法の構築	4	4	4	3	3.8
2) 看護部、実習指導者と連携し指導体制の整備と実習指導の質の向上	3	4	4	3	3.5
3) 入学時1年次から一貫した国家試験対策の強化（実施評価に基づき計画修正と実施）	2	3	3	2	2.5
4) 3年間で順調に単位を修得できる学生の育成	3	3	4	3	3.3
5) 浜田医療センターをはじめとする国立病院機構、または県内に貢献できる看護職員を育成する。	3	4	3	3	3.3
<b>3. 学ぶ意欲があり地域医療を志す入学生の確保</b>					
1) 受験生の確保	3	3	3	3	3.0
2) ホームページの効果的な運用（学校生活や行事の紹介回数の増加等）	4	4	3	4	3.8
3) 受験生が受験しやすい体制づくり（入学資格や入学試験方法の検討等）	3	4	4	3	3.5
<b>4. 教員の能力開発と職員がやりがいをもって働けるワークライフバランスの促進</b>					
1) 看護教育の質向上のために研究活動、自己研鑽がしやすい環境づくり	3	3	3	3	3.0
2) 看護研究・研究授業等の主体的な実施	3	3	4	4	3.5
3) 働きやすい職場環境づくり	3	4	3	3	3.3

評価基準：「4」：大いに達成できる（大いに成果がみられる）

「3」：達成できる（成果がみられる）

「2」：あまり達成できない（あまり成果がみられていない）

「1」：まったく達成できていない（全く成果がみられていない）

## 1. 主体的に学ぶ力を育てる学習環境の充実・整備

学生の意見を聞き対応することが上手く、ソフト・ハード面ともに学習環境のさらなる充実を図っていることは評価できる。

専任教員はもとより、非常勤講師の授業の質を確保するための支援が必要。講師会議の開催や、タイムリーな講師との情報共有と連携も改善、継続されることを期待する。

現在、3校合同カリキュラム運用することで専門的知識の深まりという利点もあるが、ホスト校ではない場合、学生の反応がとらえにくいというデメリットもある。教員が講義に入るなど改善に努めているが今後の評価・改善も期待する。

臨地実習における学習は、学生にとって多様な人間関係の中で看護学の本質を学び深めていく重要な学習方法である。指導者側の学生（学業的援助要請）を受け入れる姿勢や力量も問われるため、教員が臨床指導者と学びあいながら学生支援することを期待する。

## 2. 機構および地域へ貢献できる看護職員の育成

地域医療・看護に興味関心が持てる取り組みとして中山間地域医療実習や民泊実習など学生に好評で、実習という学習の醍醐味を味わうことが出来る内容になっている。また、ボランティア委員の発足と地域での活動展開で地域愛の育成を高めていることも評価できる。

学校が地域との人脈づくりに積極的に取り組んでいる結果、県内学生の確保はある程度行えており地域への就職にも期待できる。実際に今年度の県内就職率も80%弱と高い水準である。

## 3. 学ぶ意欲があり地域医療を志す入学生の確保

地域医療を志す入学生の確保のため、他校との差別化や県内を中心とした募集活動、ホームページなどを刷新し、活用した広報活動は高く評価できる。

地域医療について、十分な売りになっているが、この地域、そして少子高齢化の中で学生確保するのは困難である。そのため、地域からの確保だけではなく都会から地域の良さを感じてもらい定着させたり、社会人の受け入れも今後は検討する必要がある。

学び意欲という点においては、3年間を通して一貫した国家試験対策という点で成果が出ていない。1年次からの教育方法を見直し3年次までの積み上げができることを期待する。

## 4. 教員の能力開発と職員がやりがいをもって働けるワークライフバランスの促進

ICTの導入、学校運営のシステム化にいち早くシフトチェンジされたことは高く評価できる。会議時間の短縮化やWebでの相互研修など効果が出ている。

教員の質の向上は一朝一夕には成果が見えないが、日々の教員同士の関係性の中から新人が成長していけることは明らかである。経験を振り返り意味づけてみること、同じ場に居合わせることで先輩教員からの薫陶を受けるなど、幅広い学びの機会を見逃さず教員の能力開発を進めて行かれることを期待する。

学校運営について事務部門との連携が不可欠と考える。事務部門が果たされている役割についても評価し、今後につなげていくことが重要である。